



飛騨川の魅力満載

川辺町の企業経営者でつくる勉強会「川辺いぎょうの会」が、町の魅力を紹介する「飛騨川周遊」と「飛騨川の渡り鳥」の二つのミニマップを作った。町中央公民館や名古屋市中区の中日ビル内にある飛騨・美濃観光センターなど計四カ所を配り、観光や散策に活用してもいい。

(平井一敏)



ミニマップをPRする佐伯代表(左)と美濃加茂市で

川辺いぎょうの会 ミニマップ2種作製

飛騨川周遊は、町内の山川橋と新山川橋を巡る全長三・八キロの遊歩道周辺の自然や見どころを、会員らが撮影した写真付きで紹介。かつては、上流から運ばれた木材でいかだを組む「綱場」などとしてにぎわった歴史も調べて盛り込んだ。飛騨川の渡り鳥は、十月から翌年三月ごろにかけて町内に飛来するオオバン、キンクロハジロ、カルガモなど十八種類を掲載。昨年十一月の探鳥会で確認し、野鳥がよく集まる場所も地図で示した。

西マップともA4判を四つ折りにしたポケットサイズで、五千部製作。昨年六月に発行した「八坂山・大谷山周遊」に続く二、三号目で、同会の佐伯敏充代表(左)は「二十五号まで作りたい。町民も川辺の魅力を再発見し、遊歩道の整備などが盛り上げられればうれしい」と話している。

同会は二〇一三年七月に発足し、現在の会員は千六人。月一回、自然や文化など地域資源の勉強会を開いている。



2016年(平成28年)
2月2日 火曜日
発行所 岐阜新聞社
岐阜市今小町10番地
〒500-8577(専用番号)
電話058-264-1151(代)
©岐阜新聞社 2016
I LOVE GIFU
創刊明治14年

川辺の将来像探る

町商工会 町民と意見交換
など8団体

川辺町商工会など8団体が町の将来像をまとめ、昨年12月に町へ提出した提言書「かわべ近未来マップ」について話し合うオープンミーティングが、同町中川辺の町中央公民館で開かれ、提言した団体と町民らが意見交換した。

町民ら約120人が参加。提言書は町民と来町者が集う「川辺大交流センター(仮称)」の新設など、2030年をめどに施策の実施を求めている。オープンミーティングでは主催者側が町財政が厳しい状況にある中、地域に必要な施設、町民と行政の協働などを盛り込んだ同マップの趣旨を説明した。

パネルディスカッションでは、加藤孝明町商工会長は「近未来マップは完成形ではなく、もっと良いものをつくっていくために意見を出してほしい」と



提言書について意見を交換したオープンミーティング
＝川辺町中川辺、町中央公民館

あいさつ。佐々木信英 掘り起こし生かしてい
可茂県事務所長は「地くことで、川辺の目指
域創生へ地域の資源をす方向を住民に伝えて

いくことが大切」と語り、佐藤光宏町長は提言の実施には予算が必要で、プロジェクトチームをつくってどうするのかが検討している」と対応を示した。

会場からは、町内の川辺酒場について「子どもたちがポート施設を自由に使える環境にしたら、人口人口も増える」、人口減対策では「教育で優れた取り組みをすれば川辺の魅力に注目して集まってくれるのではないか」などの意見が出された。

(足立泰弘)